

日本史B

第3問 問3 「17」

史料と既習の知識を結びつけて考察する問題で、各学力層で差がついた

問3 下線部◎を作成した人物は、庶民を思い、いつくしむ政治を行うことで知られていた。次の史料はこの人物に関するものである。この史料と幕府の政策に関して述べた後の文 a～d について、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 17

史料

江馬太郎殿、昨日豆州北条に下着し給ふ。当所は、去年少しく損亡によりて去春より庶民等糧乏しく、なかば耕作の計を失ふの間、数十人連署の状を捧げ、出拳米五十石を給はる。よって返上の期は、今年の秋たるのところで、去月大風の後、国郡大いに損亡し、飢に堪へざるの族すでもって餓死せんと欲するの故、件の米を負ひかさぬるの輩、かねて誼責(注1)を怖れ、逐電(注2)の思ひを挿むの由、聞及ばしめ給ふの間、民の愁いを救はんがために…(中略)…彼の数十人の負人等を召し聚め、その眼前において、証文を焼き棄てられ(注3)おわぬぬ。豊稔(注4)に属すといえども、糺返(注5)の沙汰あるべからざる(注5)の由、直に仰せ含めらる。剩へ(注6)飯酒ならびに人別に一斗の米を賜はる。各且は喜悅し、且は涕泣して退出す。

〔吾妻鏡〕建仁元年(注7)十月六日

- (注1) 誼責：過失を責めること。 (注2) 逐電：行方をくらますこと。
 (注3) 証文を焼き棄てられ：証文の内容を破棄する行為。
 (注4) 豊稔：豊かに実ること。
 (注5) 糺返の沙汰あるべからざる：ここでは、一度取り交わした約束を帳消しにするようなことはしない、という意味。
 (注6) 剩へ：それだけでなく。 (注7) 建仁元年：1201年。

- a 江馬太郎は、昨年凶作だった村の人々の求めに応じて、種籾となる米を春に貸し出した。
 b 江馬太郎は、米の返済は豊作の年でよいこととしたうえで、食料を村人に与えた。
 c その後執権となった江馬太郎は、新たに引付を設けて裁判制度の整備につとめた。
 d その後執権となった江馬太郎は、新たに評定衆を任命して合議による裁決をめざした。

- ① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

第3問 問3 「17」

正解率	26.3%
SS70～75	49.4%
SS65～70	34.5%
SS60～65	29.7%
SS50～55	26.2%
SS45～50	25.7%

2023年度第1回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試

「日本史B」

受験者数：	112,699人
平均点：	47.8点
標準偏差：	18.7

日本史B

第3問 問3 「17」

史料と既習の知識を結びつけて考察する問題で、各学力層で差がついた

結果分析

第3問の問3は、北条泰時に関する史料を読解するとともに、泰時が行った政策について考える問題で、各学力層で差がつかしました。

北条泰時の庶民への具体的な善政場面を「返上の期」「証文を焼き棄てられ」に注意しつつ史料から読み解き、鎌倉時代の幕政と関連づけて考える力が求められました。

本問では、史料中の「出挙」や「証文を焼き棄てられ」が意味していることを想起できるかで差がついたと考えられます。

指導のご提案

史料から情報を読み取る力に加えて、教科書で学習した知識を確実に習得しておくことが求められます。これからの2か月半では、表やグラフなどさまざまな資料を用いた問題演習を重ねるとともに、問題演習を通して知識事項を確実に習得することが大切です。知識を習得する際には、個別の事象を暗記するのではなく、前後関係も踏まえた流れを理解することで、効果的に習得することができます。

共通テストでは、初見資料が出題されることがあります。初見資料を確実に読み解くためには、注釈や設問文の情報に着目し、そこから何がわかるのかを考える練習を重ねておくことが重要です。